

## 地域の変化

活動先：NPO 法人 ひだまり

クラス：末盛 慶 先生

サービスマーケティングを受講するまで、具体的な興味関心や問題意識がなかった。ボランティアをしたいからといった安易な考えだったのである。しかし、1年間の学びを通して今後の方向性や地域課題を捉えることが出来た。

春に行ったNPO現場見学バスツアーでは、それぞれのNPO団体がどのような目的を持ち、活動をしているのかを学んだ。職員の方からのお話を聞くのはもちろん、実際にその団体を訪れて、外装や内装といった雰囲気を感じることが出来た。知多半島には様々なNPOがあるが、「地域住民が公共のサービスでは実現できないニーズを満たす」という思いは一緒なのだと思う。自分の活動先に焦点を当てがちであったので、広い枠組みからNPOを見つめることが出来た。

その後は活動を行う上での目的やプランを立てていった。手元にある資料だけで考えてしまったので、知多半島の歴史を学んだり、活動先でボランティアをしていけば、より具現的な計画が立てられたと思う。また、計画を立てることは事前準備を十分に行っておくことだとも思った。些細なことでも、試作や打ち合わせをすることで課題を見つけられ、よりよい活動に繋がっていくのだと思う。他にも計画書を作成する際には、言葉で表現することの難しさを知った。何度も先生に添削していただき、直すことで自分の考えや思いが確かなものになっていった。「思いを言葉で伝える」ことはそう簡単に身に着く力ではない。したがって、このような機会はとても貴重だと思った。

実際の活動では、ひだまりは様々な活動を行っていることから、多くの活動に参加させていただいた。その中でも1番印象に残っていることは、喫茶での活動である。NPOや福祉施設が運営している喫茶はいくつか知っていた。しかし、分かりにくい場所や社協の2階に建てられていることから、利用する方が限られてしまう印象を受けていた。したがって、ひだまりは図書館の一角で運営しているということで、どのような方が利用されるのか、とても興味深かった。活動を行っていく上で、常連の方から初めて来店される方、子どもから高齢者まで様々な方が利用していることが分かった。いつも同じ席に座られる方、決まった時間に来店される方、図書館に行くと必ず足を運んで下さる方、静かにコーヒーを飲む方、カウンターで楽しく談笑する方と、それぞれ思い思いの時間を過ごしていると思った。喫茶ひだまりは地域の方々にとって大切な憩いの場、くつろげる場であるとも思った。それと同時に、私は「場所」にこだわっていたことに気づかされた。確かに場所も大切である。しかし、それは利益だけを考えていて、住民の思いを一切考えていなかったのである。分かりにくい場所であったとしても、その近所に住んでいる方（たとえば足が悪く遠くまでの移動が困難な人）は必要であって、社協の2階であったとしたら、喫茶を訪れることから社協の存在を知ることが出来る。たとえお客さんが少なかったとしても、利用される方にとってはとても大切な存在なのである。いろいろな場所に喫茶がある

ことが、住民同士の「ふれあいの場」繋がっていくのだと思った。

他にも、民間企業やボランティアの方々と関わる機会があった。企業ではひだまりのパンプレットや利用者さんの作品を展示し、ボランティアでは10年近く無償で活動している方とも出会えた。様々な機関や人々から、支え支えられて「ひだまり」成り立っているのだと思った。そして、提携や連携を取ることで新しい発想や考えが浮かび、より良い活動に繋がっていくのだと思った。また、1人で出来ることには限界があるので自分の考えや思いを伝えていき、それに賛同してくれる方と手を組み、時には助けを求めることが大切だとも思った。最初で最後の出会いであったとしても、1つ1つの出会いを大切にしていきたいと思う。

活動を通し、「地域」にはいろいろなニーズを持った住民が住んでいるのだと思った。また、安心した生活を送れるためには、どのような働きかけが必要なのかといった風に「地域」に関心を持つようになった。最近、実家に帰省した時のことである。お店や商店街で障がい者が買い物している姿を多く見かけた。以前までは、そのような光景はなく驚いたのと同時に、時を追うごとに地域は変わっていくのだなと思った。地域の変化を見ていきたいし、自らが変化を起こしてきたいとも思った。サービスラーニングで学んだことを胸に、残りの大学生活を充実のあるものにしていきたい。

#### ひだまり企画

☛ 2010年8月18日（水）うちわづくり



目的：季節感を感じて頂き、  
指先の運動につなげる

2010年8月12日（木）☛風鈴づくり

